| 次/子どもの道徳的・法的地位と正義論

序	章	子ども問題の法哲学
Ι	子	どもは天使か悪魔か 1
Π	子	・どもをめぐる規範理論・グランドセオリーの必要性 4
	1	問題 (克服) の深刻性・緊急性・重要性 4
	2	事実性問題――子ども論問題 6
		(1) 子どもとは 6
		(2) 氏か育ちか 8 (2) th to 4 th BB BB
	_	(3) 方法論的問題 9
	3	規範性問題――子ども規範論問題 9
		(1) 規範性問題と子ども処遇 9 (2) 関係主体問題 12
		(3) 国制問題 14
		(4) 基底理念問題――どのような基底理念が求められるのか 15
II	子	- どもの権利論 16
	1	子どもの権利とは何か 16
	2	関係的権利論 20
		(1) 関係的権利論とは何か 20
		(2) 関係的権利論の課題——子どもの道徳的・法的地位の捉え直し 22
IV	本	書の概要 25
第1	章	議論の前提としての子ども論
Ι	子	とども論と規範理論 31
	1	遺伝か環境か 31
	2	記述的子ども論――行動遺伝学の知見から 32
		(1) 行動遺伝学と子どもの発達 32
		(2) 親密化—同化—差異化 36

II	子	ども論の現代的展開——子ども学 (Childhood Studies) 42
	1	子ども学とは何か 42
	2	四類型論 45
	3	子ども論と社会構築主義 47
		(1) 子ども論・子ども学と本質主義批判 47
		(2) 社会構築主義 49(3) 社会構築主義的な子ども論の意義と課題 51
	_	
Ш	子	ども論の事実性と規範性問題――接続説と分断説 53
第 2	章	親子関係とは――親権概念を問い直す
I		つの前提 61
	1	悩ましい問題 61
	2	親の自由 64
		(1) リプロダクティブライツ・自由としての子育てケア 64
		(2) 所有物説 65 (3) 所有物説の否定 66
	2	親の責任・義務 69
	J	(1) 親の責任・義務の類型化 69
		(2) 義務発生の種々の淵源論 71
		(3)引き受けの核心 74
Π	調	整・併存は可能か 76
	1	閾値問題・調整問題・介入―支援問題 76
		(1) 併存問題 76
		(2) 各分野における調整 80
		(3) 調整時の考慮点――親密性問題 83
	2	親業免許の主張とその理由 87
		(1) 調整基準に関するもうひとつの具体例? 87 (2) ラフォレットの親業免許制度論 88
		(3) 反論可能性に対するラフォレット自身の応答 91
		(4) 後退するラフォレット? 92
	3	親業免許の実効性 93
		(1) テストの信頼性 93

		(2) 代替案問題 95	
Ш	小	舌――親子関係の規範理論 97	
第3	章	親の正義論――子育てコストの共有問題 ――	107
I	子	育てコスト分配問題 107	
	1	子育てコスト負担問題 107	
	2	子育てコストとは何か 108	
		(1) 子どもケアと子育てコスト 108	
		(2) 子育てコストをめぐる現況 110	
Π	コ	スト共有の正当化論――おとなと子どもの視点から 11	3
	1	はじめに 113	
	2	おとな側の視点からのコスト共有説 115	
		(1) フェミニズム説 115	
		(2)親の自律説 116(3)公共財説 123	
		(4) 社会財説 127	
	3	子ども側の視点からのコスト共有説 131	
		(1) 初期条件的自然資源平等説 131	
		(2) 運の平等説 135	
		(3) 一般的義務説 138	
		(4) 引き下げ平等説 140	
Ш	子	どもケアの公共化再論――誰が、どこまで 142	
<i>k</i> /k= 4	754	the half the half the	
第 4	草	誰のため、何のための陶冶・教育? ——市民性教育問題から考える	149

I 規範理論としての陶冶・教育 149 1 国制と教育 149 2 人材育成とは――陶冶・教育目的から考える 154 Ⅱ 市民性教育 157 1 市民性教育とは何か 157

2	リベラルデモクラシー的教育論 158
	(1) クリックレポート 158 (2) リベラル志向性とデモクラシー志向性 161
Ⅲ 市	民性教育の課題 162
1	内在的批判162(1) 両プロジェクトの角逐162(2) 調和点はあるのか?168
2	外在的批判――他の徳論の可能性問題 173
3	何が可能なのか――リベラルデモクラシーの実践へ向けて 178
終章	子どもに関する正義論・権利論
I お	となエゴ・おとな先行性 187
Ⅱ 子	どもの立場に立つこと 192
1	仮言的正義論と定言的正義論 192
2	新・子どもの権利論序説 195
参考文献一	見

iv

索 引 あとがき